

「家がいいね」 第35号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2007. 4. 10



当院の開院から、一つの目標の5年が過ぎ、6年目の春を迎えています。医療法人として認可がなされ、「あゆみ会」という名称がクリニックの上に付く事になりました。医院は個人の持ち物ではなく、社会のものという気持を更に強く持っています。がんを抱えた人でも、どんな病気の人も、望めば自宅が最期の生活の場になるように、少しずつ支援できるようになっています。この先はさらに幅広い相談に応じられるよう訪問看護師スタッフと共に活動を拡げてゆく所存です。

野心も私心もなく、あるのは素心だけ

そういう人の生き方を愛した作家の城山三郎さんも逝きました。小説「粗にして野だが卑ではない」では、最後に国鉄総裁として捧げた石田禮助の生涯を書きました。商売に徹して生きた後は、「パブリック・サービス」。そこで初めて天国へ行く。78歳で難職を引き受けた石田は、「これで天国へのパスポートを与えられた」と言ったそうです。パブリックの本来の意味は、日本の諺語「公」とは違い、権力や権威とも無縁で、一人一人に奉仕する極めて「私」的な生き方なのです。勲章も胸像も拒否する生き方が、頂点を極めた人に在るのを知るのには、清々しいものです。

「背中を押されて」という言葉

よく聞くようになった言葉ですが、私には違和感があります。結局は自分で一步を踏み出すでしょうか。しよのない時があるのですが、それをこう言うて、誰かに責任の一端を持って欲しい心境があるような気がするのです。準備が整わないタイミンで背中を押されると危ない時もあるでしょう。でも後悔するとしても、自分の非力を悔いるよりも機会を勧めてくれた人を責めるような事は、私自身はしたくありません。

「がん患者の家族ケア」特別セミナー

みえ生と死を考える市民の会が、市民向けに開催します。午後に総会も予定。

講師 沼野尚美さん（六甲病院チャプレン・カウンセラー）

「共に生きる道（まんいち、家族が末期がんになったら）」



4月22日（日）10時～11時半
フレンテみえ セミナー室C（三重県総合文化センター）定員100名（事前申し込み制）

緩和ケア講演会

みえ生と死を考える市民の会の講演会です。



講師 柏木哲夫先生（金城学院大学学長・医師）

「人生の実力」2500人の死をみとって わかったこと」

日時 6月10日（日）13時半～16時
場所 フレンテみえ 多目的ホール（三重県総合文化センター）

一般900円（前売りチケット販売中）

当院のスタッフです。よろしく



自宅での人生を 最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>